

## 「青空会ニュース第200号記念号」(HP 限定版)の発行

掲題の記念号の原稿募集に対して、4名の方々から応募がありました。

- ① 中田会員 「青空会ニュース第200号発行記念」
- ② 小林会員 「青空会ニュース200号に寄せて」
- ③ 清水会員 「ライカ M5 に魅かれて」
- ④ 山田会員 「200号物語」

応募数が少なかったため、紙による発行を断念し、HP に限定した「200号記念号」としました。

ご覧ください。

## 青空会ニュース第200号発行記念

中 田 百 穂

月刊ニュースは、最近の情報、連絡を伝えるのみでなく、回を重ねるにしたがって記憶を引き出すツールでもある。又写真も過去の思い出を再現してくれるツールでもある。

「古いアルバムめぐり・・・」

ある日思い立ち古いアルバム、写真等を保管しているダンボール箱を40年ぶりに開けてみた。カメラ（二眼レフ）を初めて手にしたのは中学の京都・奈良修学旅行、その時の写真から社会人初期までの間撮ったり、撮られたり、ネガ、リバーサルフィルム迄、数多く出てきた。写真展にも出品した修学旅行時の猿沢の池、法隆寺、清水寺、昔住んでいた板橋の家高校時代の彼女とのツーショット（当時としては自由な校風）、大学時代のゼミ等合宿風景アルバイトの代々木競技場工事中写真、写した記憶のない新婚旅行の写真等、色あせた写真を時間が経つのも忘れて一枚、一枚見入った。ただ残念な事に1956年、樋笠の代打逆転サヨナラ満塁ホームランを二眼レフで撮った事は覚えているが、今回見つからなかった。

現在はデジタル等で保存する時代、写真を見ながら思いにふける事はないかも知れないが喜寿を過ぎて日記、写真等で過去を振り返るのも又良し、前向き、そして後ろ向きの人生も秋の夜長、気長に写真を整理しよう（フィルムはデジタル化して）と思うこの頃です。

「過去への想い涙そうそう」

青空会ニュース200号に寄せて

小林恒量

鍋田さんのエッセイから、2001年6月青空会発足の歴史を知った。その頃、自分か写真を愉しむ日々送ることは全く想像していなかった。

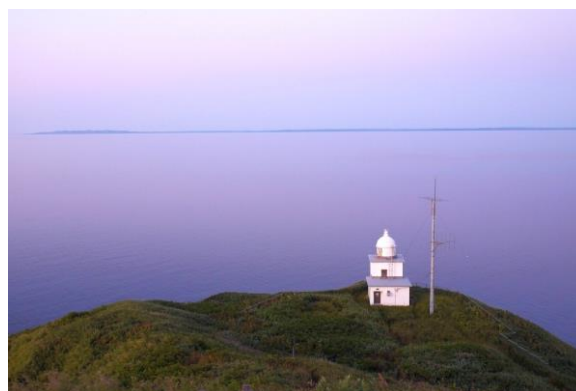
中高校時代白黒写真を中心にカメラの楽しさに触れましたがデジカメを身近に置く生活は想像外だった。

青空会発足1年前の2000年、初めてデジカメを使用し海外からPC通信でデジカメ画像を送信した体験は「デジカメ回想」に纏め、別途青空会HPに掲載（公開）します。

上の写真は初めてのデジカメ（Nikon E990、2000年6月購入）とその後、旅行用に使用した小型デジカメ（Canon A640、Canon G12）です。下の2作品はその頃撮ったデジカメ作品です。



2009年7月12日 am4:46 稚内港



2009年7月13日 pm7:31 稚内港

## ライカM5に魅かれて

清水 隼雄

下北沢から乗ってきた男性の肩に、ストラップを介して縦吊りのライカM5がぶらさげられていた。

このM5は、ライカファンの中では必ずしも人気のあるカメラではなかった。何故ならライカに初めて TTL 露出計が組み込まれた為に、ボディが大きく重くなり今までのM型のように軽快に撮影が出来なくなってしまった。また、軍艦部のデザインも変わってしまい、これもファンの不評を買っていた。

私は、この時には友人から譲ってもらったM6を使っていた。自分もM型のデザインが好きで、M3に次いでこのM6を使用していた。

大きくそしてデザインが変わってしまったM5だったが、車内の男性が持っていたライカはそうは見えなかった。黒いカメラが縦吊りされている姿に圧倒されてしまった。

迫力充分でその男性に良く似合っていた。自分は、皆が嫌っているカメラを使っているんだぞと云うような反骨精神が彼から窺えたのである。

自分は、子供の頃から強いものに憧れていたもので、すっかりM5に惚れてしまった。すぐにM6を処分し、新宿東口の中古カメラ屋でM5を買ってしまった。ファインダーに少し曇りがあったので、「関東カメラ」でクリーニングしてもらい今も使い続けている。もう20年以上になる。

大きく重いM5だが、使っているとそれほど体に負担がない、逆に安定していてカメラぶれを防いでくれる。また、露出計があるのは大変便利で、今までは晴れた日は何とか露出が合っていたが暗いところではかなり露出を外していた。

シャッターダイヤルが大きくなりボディの外側に出っ張って配置されたので、ファインダーの中の露出計を見ながら、ダイヤルを動かし露出を決めることが出来るようになった。

最近、これに広角レンズ・エルマリート 28mmを付け「置きピン」でスナップを撮っている。このレンズは、F8まで絞ると1.5mから無限遠までピントが合うのだ。

これからも、ライカM5でモノクロを撮り続けて行きたい。

## 200号物語

山田剛三

「青空会ニュース」の発行が200号を迎えました。おめでとうございます。先輩諸氏のこれまでのご努力に深く敬意を表します。

そこで、200号に因んだ話題をいろいろ調べてみました。

通算868本のホームランを放った、ジャイアンツの王選手の200号ホームランは、入団7年目の1965年9月19日、当時の大洋の峰投手から。

また、国道200号線は、福岡県の北九州市から筑紫野市まで続いていて、総延長は約60km。

写真に関する事柄では、1926年(大正15年)4月に創刊された「アサヒカメラ」は、1950年(昭和25年)4月に第200号が刊行されています。創刊後90年も続いているなんてすごいですね。

山形県酒田市にある「土門拳記念館」は、1983年10月1日に開館し、今年(2023年)の10月1日で34年目になりました。入館者100万人達成は、1997年6月1日とか。200万人突破までは、あと1万人に迫っています。

「青空会ニュース」の300号は、月1回のペースを維持していけば2026年2月号ということになります。その時まで皆さん元気に写真を撮り続けて行きましょう。

私も元気でいたい。撮影会の幹事はもう引退させていただくとして、ホームページ編集の仕事は、呆け防止のため続けさせてくださいね。